

2011年8月20日

Mobilecore hackathon&ideathon

# アイデアソン

---

アプリのアイデアを発想するワークショップ

アイデアプラント  
石井力重

# 今日のアイデア = 公共財

- 今日は、沢山の人とアイデアを出しあいます。
- 今日、この場で出されるアイデアは、この場にいた人の公共財として、参加者の誰でもが、利用できる、という前提にしたいと思います。
- 「他の人に使われては困る！」という構想は、本日のアイデアソンでは、心の中にしまっておいてください。

# 1) 導入

「発想の特性、3つの絵」

A4の紙を一枚とり、  
ペンを持ってください。

次に言うものを、10秒で  
絵に描いてください。

# 今日の内容

---

- 発想するアプリのテーマ
- 発想の切り口を作り出すワーク  
「体験を動詞で書き出す」
- 5分交代のペアブレスト
- アイデア・スケッチを書く
- チームを作る（トップ15 +  $\alpha$ ）
- アプリを紙で作る

本日、発想するアプリのテーマ

本日、発想するアプリのテーマ

# フリーテーマ (なんでもOK)

---

- A3 (コンテスト) 狙い → 「被災地支援、発展、安心」
- 自分のアイデアがある → 「それを広げて下さい」
- **面白そうなアプリを楽しく発想したい**
  - 発想する方法、あります

発想の切り口を作り出すワーク



仮説 1 :

アプリは、  
「体験をより良いものにする」 道具

体験をよりよいものに。



「動詞で考える」

でもさ・・・。  
20～30代の男性、  
技術・企画系の職にいる人の  
「動詞」なんて、  
大体、もうあるんじゃない？

「計算する」「歩く」「食べる」アプリ…

その可能性は高い。

しかし、

- ・ 高齢者の一日は？
- ・ 八百屋のおかみさんののは？
- ・ 子供のは？

仮説：

既に有るアプリは、  
動詞の全てを埋め尽くしては  
いない。

→ 未踏エリアを探す！

# 最もシンプルな方法

- ・ 動詞を50個列挙

# 発想技法を利用する

- ・ 次のページへ

# 「エクスカージョン」

- 職業を8個書く（なるべく異なるもの）
- 1つ目の職業の人が、起きてから寝るまでに  
する行動を想像し「動き」を8個、書き出す。
- 2つ目、3つ目、同様
- マンダラート形式で、トライ → 図1





シートを回し、☆を付ける。

「アプリに出来たら面白そう！」  
と思うものに。

(既に有りそう、  
どんな価値があるのか分からない、  
実現できるか分からない、 ……というものでOK!)

自分のシートが戻ったら、  
☆の多いものを線で囲い  
目立たせる

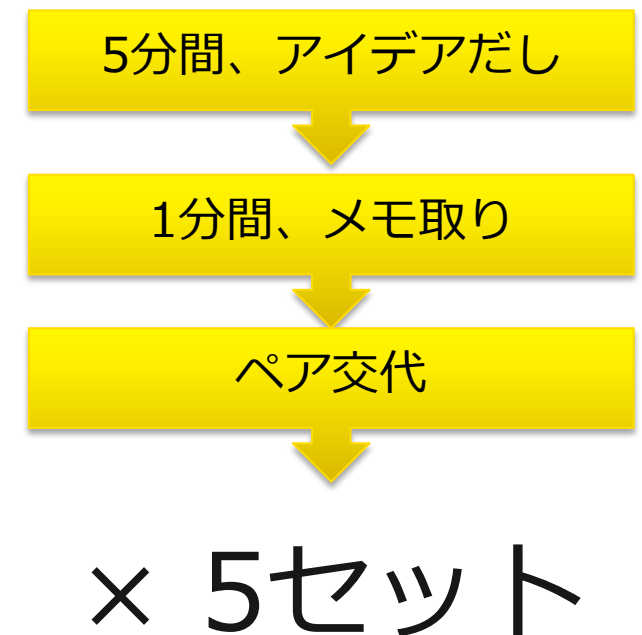
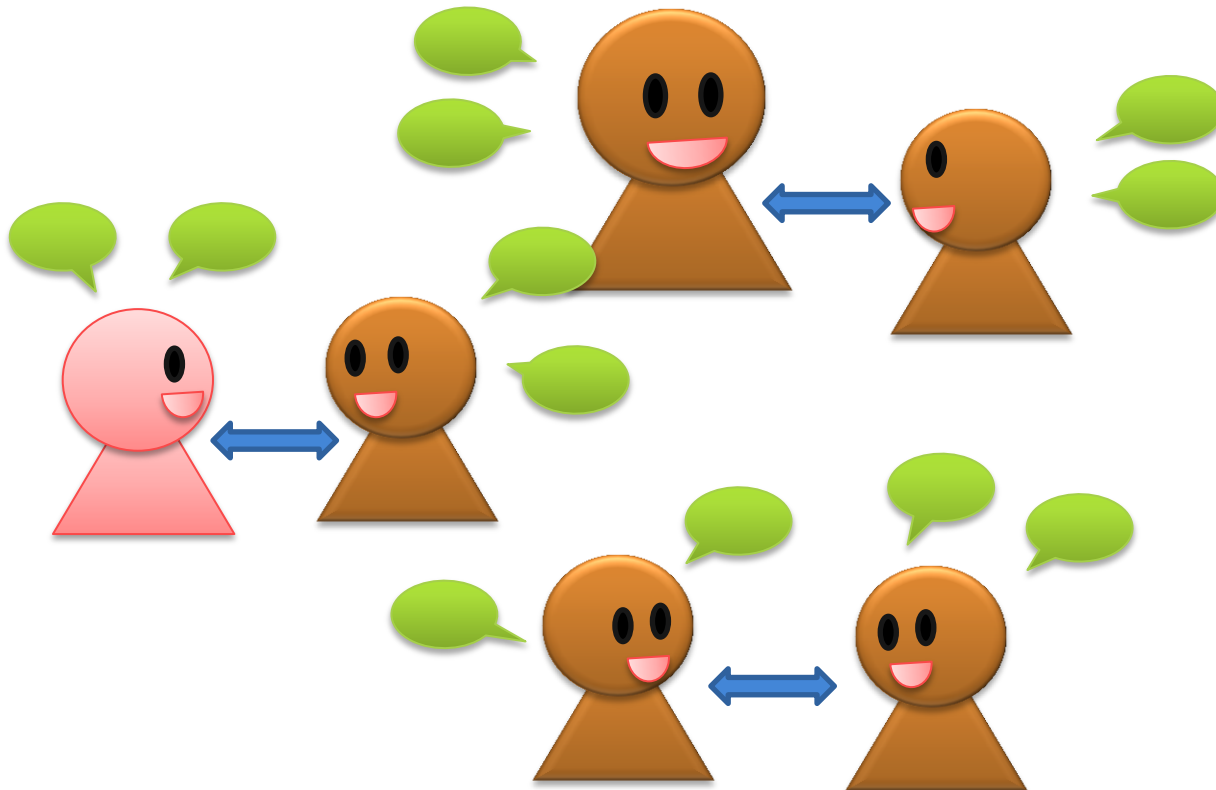
(この後のブレストの材料に)

5分交代のペアブレスト

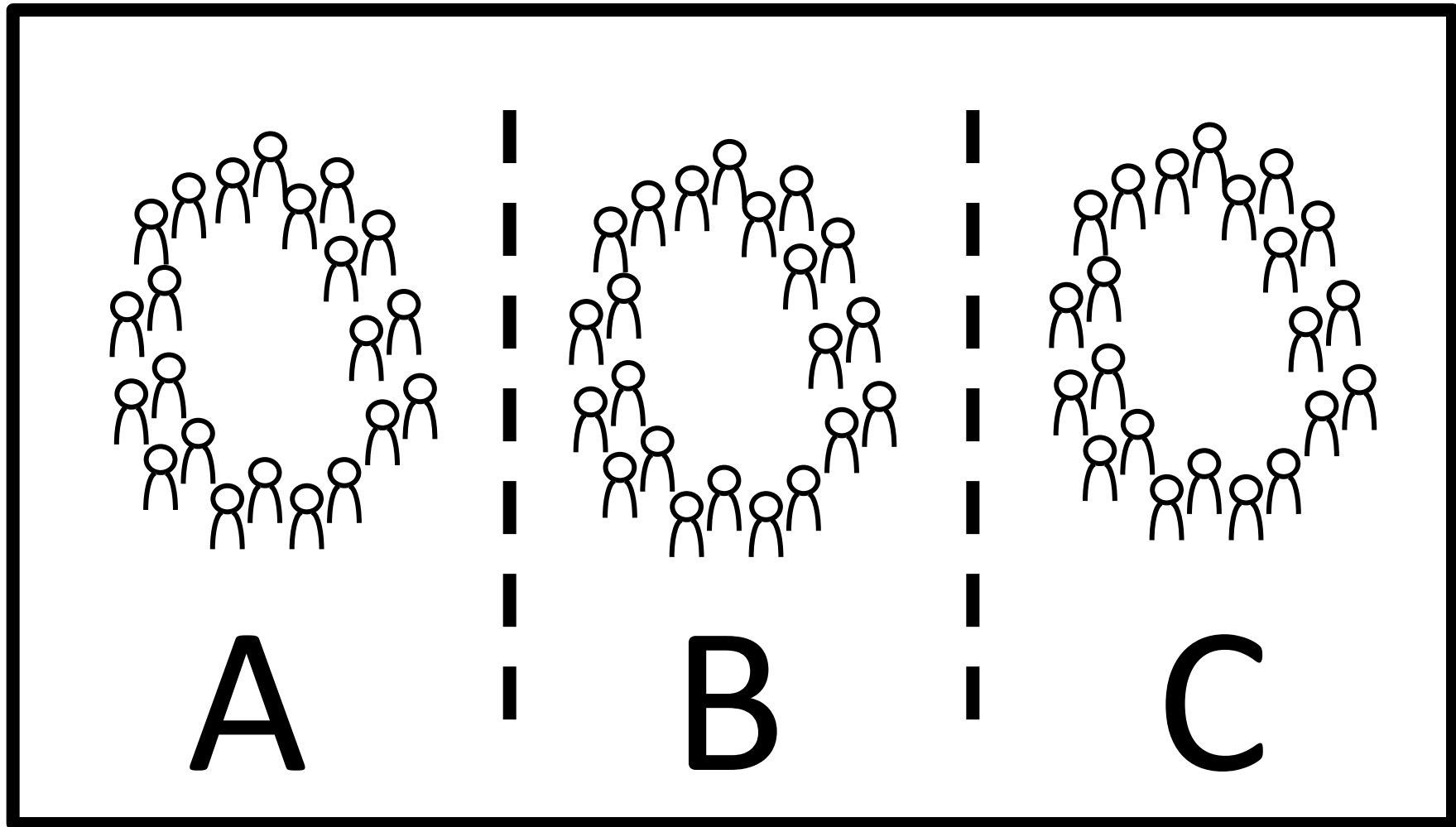
# 1. ペア・アイデア出し (他花受粉)

## SpeedStorming

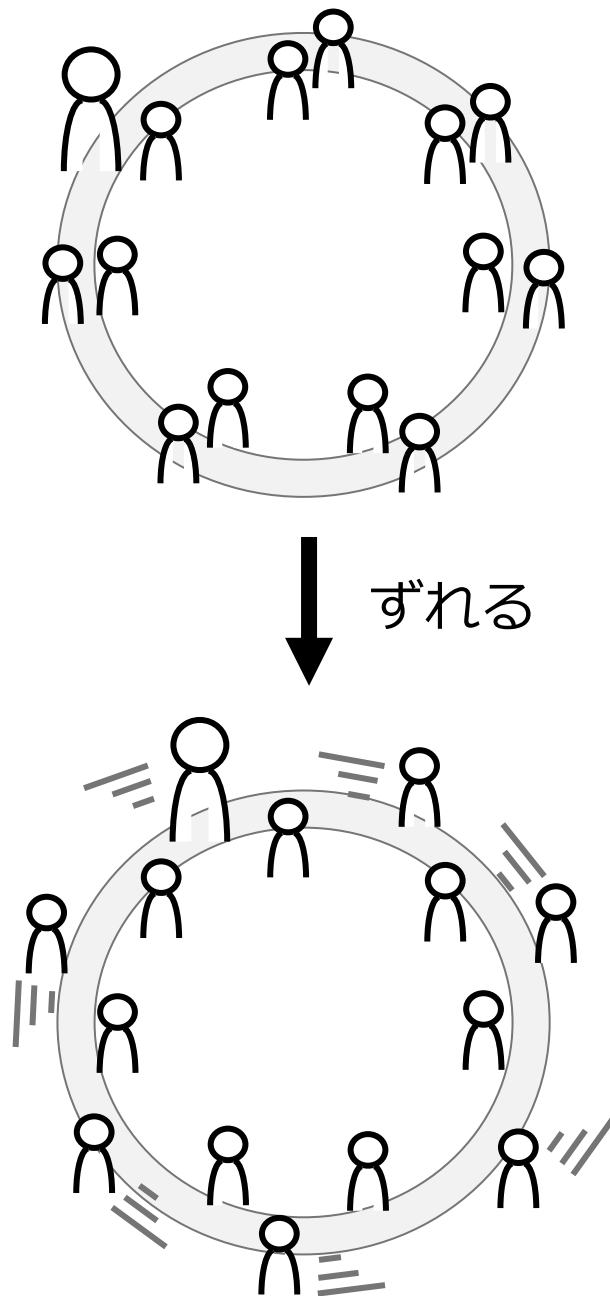
- MITで開発されたアイデアワークの方法
- 異なる専門の人同士の連携ネタを生み出しやすい



今のメンバーとできるだけだけ分かれ  
会場全員で、大きな二重の円を、3つ作ります。



# やり方 (30分)



- ① ペアで、輪に
- ② 5分間、ペアで  
(ブレスト。お互いのアイデアを  
紹介しあって、広げる)

動詞

独自

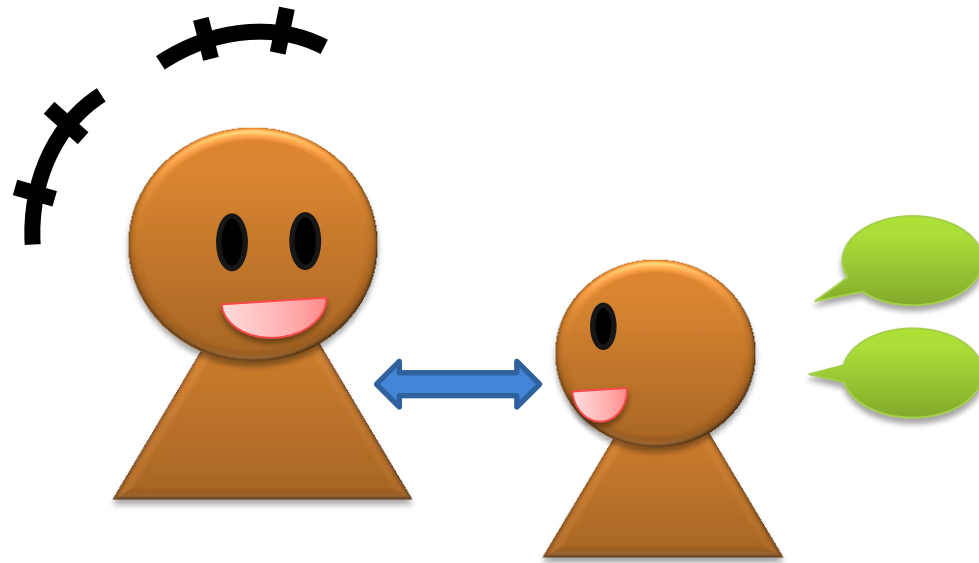
A3

- ③ 1分間、メモタイム  
(会話を、徐々に収束)
- ④ 挨拶、外側が1つ移動  
(時計回りに)

～ 計5回、実施

ルールを1つだけ。

「プレイズ・ファースト」

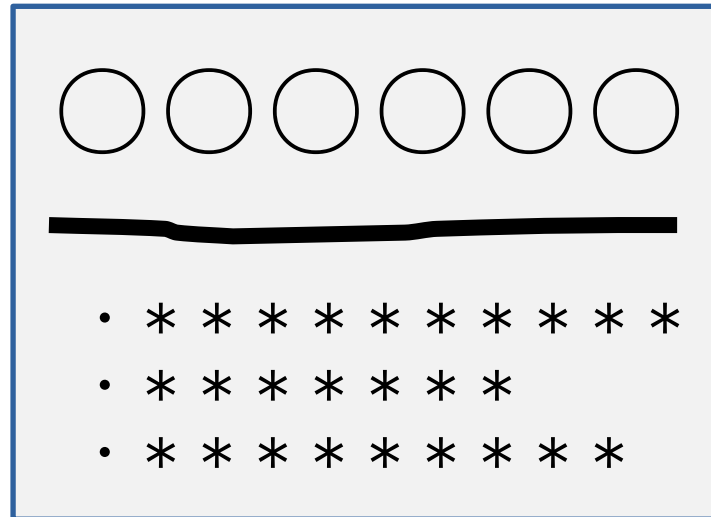


“アイデアの良い所に  
光を当ててコメントする”

アイデア・スケッチを書く



# アイデア・スケッチ



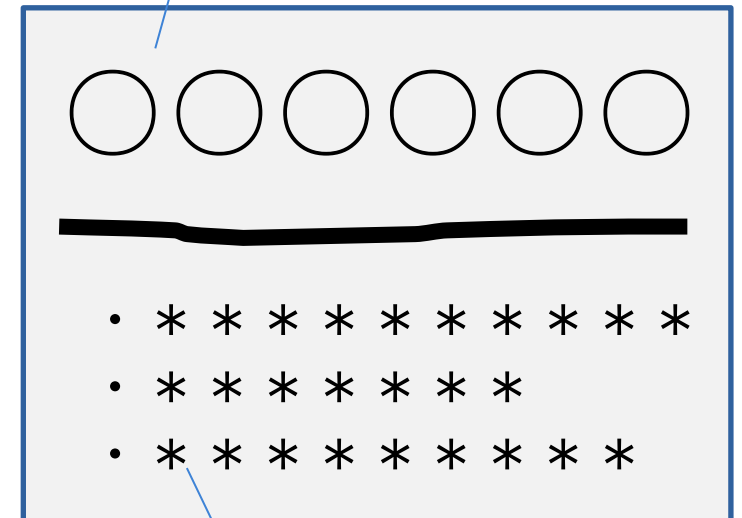
アイデアを、少し具体化。

# アイデアの書き出し

印象に残ったアイデア、  
取り組みたいアイデア、  
を書く。

1人3枚。8分 (+a)

アイデアのヘッドライン化



補足、詳細、3つまで!

(他の人から聞いたアイデアでもOK!)

# ハイライト法

---

☆を付けて回る。

**「面白い」**

**「広がる可能性がある」** と感じるものに。

やりやすい人数になる様、  
全体を3つのグループに分け（20人位で）ワークを行います。  
その分け方は、その場の状況次第で。

# アイデアのレビュー

---

各グループの「☆の上位5個」貼りだす

発案者による紹介  
(全員でアイデアを聞きます)

この後、チームに分かれます。  
どのアイデアに参加しようかと、検討しながら聞いてください。

**情熱枠**があります。☆が多くななくても  
「これをやりたい！」というものも候補に。

チームを作る

各自、やりたいものを決め、  
シートの上に集まる（10分）

【！】 グループ成立条件

人気のあるアイデアは  
6人以下になるように、  
分割します（ $i / A$ ）

人数 = 2~6人

開発者 = 1人以上入る（開発期間は短くてもOK）

開発者がいないグループは、  
参加する人をよそから  
引っ張って来るか、別のグループへ。

が、その前に。

# 情熱枠、あります。

「☆が多いモノではなかったが、  
俺は（私は）これをやりたい！」

というものがある方は、  
そのアイデアを「1分プレゼン」できます。

**（これが、結構、いいものになったり、します）**

チーム形成は、

「トップ15アイデア」及び「情熱枠」が  
候補となります。

アプリを紙で作る



「災害・被災地支援のアプリ」でなければここは不要です

## 【普段使いするためのアイデアも、オンする】

ゲーム要素を入れて、ブレスト。  
(遊び方向の機能を付ける)

普段から使って慣れていることはかなり大事  
そうでないと・・・  
(いざの時使えない) (必要な時に持っていない)

フリーなブレストでOKです。  
道具を、ちょっと、使います。

# 【アプリを紙で作る】

- 広げる。  
そのアプリ、どういう感じの使い方になるかを  
言う&ポストイット化。矛盾案や別バージョンもOK
- 削ぐ。  
「無いと成り立たない」と  
「無いと価値・面白さがなくなる」だけに。
- 骨格。  
模造紙に、画面遷移の流れを書く（適宜の方法でOK）  
（推奨文字サイズ・シートを参考に）
- オプション （そぎ落としたポストイット）を遷移図の周辺に張る。

# アイデア紹介

– 各チーム2分前後

(30分を、チーム数で割った時間)

- 模造紙を、ガラスに張り付けて。

ハッカソンのチームを作る

アイデアソンで完了の方へ

# ハッカソンのチームを作る

「こんな技術者を募集！」  
とチームごとに宣言。

メンバー増・減や  
チームの合流・独立分化もOK

(原さん、棚橋さんに、バトンタッチ)

## アイデアソンで完了の方へ

希望するメンバーで、1Fの端末から  
A3（コンテスト）の「アプリアイデア」に  
応募してみませんか。

タイトル＋1000字説明（すごく自由！）でOK！  
この場で議論したアイデアはぜひ、有効に  
活用してください。

（石井と内村さんが案内）

本日は、皆さま、  
ありがとうございました

アイデアプラント 代表  
フアンドロイド 理事長  
石井力重 @ishii\_rikie

移動の前に、  
事務局の方からの連絡事項を。



# (非表示スライド)

- アイデアソンの時間 = 5 時間弱 (4 h 4 0 m)
- 参加者の方の数 = 6 3 人  
(翌日のハッカソンは、3 4 人)
- テーマ = オープンテーマ

## 全体構成の思想

- はじけた、アイデアソン
- 確度高い、ハッカソン

# (配置)

- スタート時点のテーブル配置は、6人1島の構成を想定
- 63人なので、10島を設置  
(3人は、適宜、分散)
- 講師用のPCと小物を置く小さいテーブルを壁  
ギワ（スライド投影場所の近く）に
- ガラス面を使ったワークもします。

# (準備物)

- ポストイット 75mm\*75mm (1人30枚~) 合計1800枚
- 模造紙 18枚
- 模造紙を張るメンディングテープ 適量 (~3巻)
- A4白紙 (1人10枚~) 合計630枚
- プロツキーorポスカ (染みないペン) 18本
  
- マイク
- ホワイトボード
- ホワイトボード・イレイサー